

驚くべき小池知事の姿勢
答弁にたたく逃げの一手

表面からのつづき

という事例をあげる和泉都議が「滞納している原因やくらし向き、個別の事情はそこに行ってみなければわかりません。知事はこのような実態を聞いて胸が痛みませんか」と聞きました。しかし知事は答えませんでした。

和泉都議は「このような深刻な事態に知事は語るべき言葉を持たないということですね」と述べてあらためて都が訪問催告を復活するよう求めました。

また、お台場噴水計画で、和泉都議は小池知事に対して「知事がこれまでに見た噴水で感動し、もう一度見たいと思った噴水はどういう噴水ですか」と質問しました。

これは知事の体験による噴水への認識を聞いたのですから、知事にしか答えられない質問です。ところが何を警戒したのか知事は答えませんでした。代わりになんと、局長が答弁に立ちましたが、全く無関係な内容でした。

これではまともな質疑になりません。和泉都議は「知事にしか答えられない質問になぜ答ええないのか、全く理解できません。」と述べてお台場噴水が知事が見てきたドバイ・ファウンテンと酷似していることを

指摘して質問をすすめました。

都営地下鉄

通学定期を無料にすべき

和泉都議が提起



和泉都議は公営企業決算委員会が都営交通における子どもの負担軽減と、十八歳以下の通学定期無料化を要求し、問題提起を行いました。

和泉都議はシングルマザーの家庭で、子どもたちの通学定期を「六か月定期のほうが割引率が高いけれど、夏休みや冬休みの時期がもつたいない」と三か月定期を買っている事例や、金属金型の町工場を親から受け継ごうと葛飾区から品川区の都立産業技術専門学校に通っている少年が、最近、町工場の厳しい経営状況を知って「授業料が無料になったから学びたい」と思って入学したが、通学の交通費の負担が重く、親に申し訳ないと思っている」と語ってくれた事例を紹介して

「子どもの交通費負担を軽減することは、育つ権利、学ぶ権利を保障するう

た。小池知事が知事としての資格を疑わせる一場面でした。

その結果、令和五年度の都営地下鉄の乗車料収入の総額は一四二億円で、このうち通学定期の収入は四七億円で全体の三・三％。定期外の小児運賃収入は約七億円で割合は0・五％ということがわかりました。

和泉都議は「あわせても五七億円。やる気になれば通学定期も含めて無料にできる。知事は選挙で『子育てと教育にお金のかからない東京』を公約したのだからぜひとも実施していただきたい」と求めました。

なおみのさわやかエッセー



「私の映画談義」という本

葛飾の元都議会議員である木村陽治さんが、若いころにおそらく夢中になって見たのであろう映画について、木村さんの目を通して、その価値を鮮やかに描き出した、「私の映画談義」。

その1「男と女、裏切り」、その2「戦争の記憶について…」その13「赤狩りとハリウッドのたたかい」など、それぞれのテーマごとにいくつかの映画が紹介されていく。映画をつくった人たちが、その時代をどう生きたかを描くこの本は、どうやらただの「昔の映画の話」ではない。

「何を見つめ、いかに生きるか」は、「今」を生きる私たちに問われるテーマでもある。

それにしても、観た映画の数に圧倒される。私はオーディオテープバーンが大好きで「ローマの休日」も何度も見ているが、ハリウッドの「赤狩り」とたたかった脚本家と、そのたたか

を支援した監督によって、創られたものであるとは、知らなかった。

一つひとつの映画を「観たい」という気にさせる。観たことのある映画も、この本を読んだ後で「もう一度観たい」と思わせる。そんな一冊です。



日本共産党都議会議員 和泉なおみの生活・年金・法律相談 2025年1月8日(水)午後2時より 事前にお電話ください 場所 和泉なおみ事務所

和泉なおみの幹事長日誌 11月12日 火 私立幼稚園PTA連合会大会 11月18日 月 公営企業決算特別委員会全局質疑 11月19日 火 提出議案の会派代表への説明 11月21日 木 定例会前懇談 11月25日 月 公営企業決算特別委員会 11月26日 火 国民健康保険運営協議会 11月29日 金 財政委員会 12月3日 火 議会運営委員会理事会 都議会第4回定例会開会本会議 12月4日 水 外国人学校について考える会視察 12月5日 木 公営企業決算特別委員会 12月6日 金 議会運営委員会理事会

